

# 年頭所感

## 新年挨拶



大阪府知事 太田 房江

あけましておめでとうございます。

「逢う人 みな美しき」。これは“情熱の歌人”と呼ばれた、与謝野晶子の歌の一節で、私の最も好きな言葉です。年初にあたり、この言葉に込められた、“一期一会”の大切さを今一度思いおこしたいと思っています。人と人との出逢いや、交流を通じて、都市と都市、国と国との良好な関係が築かれ、それぞれの都市や、国の発展にもつながると私は信じています。この気持ちを今、深く心に刻み、新たなスタートを切りたいと思います。

大阪では2007年に、関西国際空港の第2滑走路の供用が開始され、2008年には、「関西サミット」を実現すべく取り組んでいます。また、アジアでは、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博など世界規模のビッグイベントが続きます。今年は、大阪にとってアジアとともに飛躍する一步を踏み出す絶好のチャンスです。このチャンスを絶対に逃してはなりません。

大阪はアジアとの交流・協働・貢献を通じてアジアの様々な期待に応えるためのポテンシャルを有しています。私は、大阪とアジアの各都市がともに発展し、アジア全体の“元気”に大きく貢献することができるような関係を築いていきたいと考えています。そのため、現在、具体的な将来像と戦略を示した「アジアの中核都市・大阪ビジョン」の策定作業を進めているところです。このビジョンをもとに、アジアの中で大阪の魅力と存在感をますます発揮してまいりたいと思います。

大阪経済は、産業再生に向けた先進的な取組や、雇用創出のための施策展開が少しずつ実を結び、回復への道を着実に歩んでいます。こうした回復基調と歩調を合わせるかのように、昨年、スポーツ界でも、阪神タイガースがリーグ優勝を決め、サッカーではガンバ大阪が、関西勢で初めての優勝を果たすなど、大阪の元気に更なる弾みをつけました。

この流れを加速させるためにも、大阪再生に向け、安全なまちづくりや将来を担う人づくり、そして誰もが自立し、生きがいをもって暮らせる社会づくりを引き続き促進し

ていきたいと考えています。

さらには、財政再建に向けた「行財政改革」の手綱も緩めるわけにはいきません。大阪府ではこれまで、平成19年度の財政危機を確実に克服し、大阪の再生を果たすため、全国で最も厳しい行財政改革に取り組んでまいりました。これからも、「改革のトップランナー」であり続けるよう、改革の前倒し、スピードアップにより、しっかりした行財政基盤を確立してまいります。

「三位一体の改革」もひとつの区切りを迎えましたが、地域主権の実現はまだまだ緒についたばかりです。「与えられる地方分権」から「地方発の地域主権」への改革を“ほんまもん”にするためにも、地方がスクラムを組んで、更なる発展に向けて全力で邁進してまいります。

今年の4月には、与謝野晶子生誕の地でもある堺市が、政令指定都市となります。中世には、海外交易の拠点として栄え、「自由・自治都市」としての伝統を持つ同市の政令指定都市移行が、地方分権の推進のモデルケースとなり、大阪の活性化の原動力となることを心から期待しています。

8月には、国内最大の高校生スポーツ大会である全国高等学校総合体育大会が大阪府を中心に開催されます。大会スローガンは“君がひかり 近畿の空は青くそまる”です。

一人ひとりが熱き力で競い合い、その輝きは近畿の空までもそめる。その爽やかなドラマにのせて“大阪の元気”、“関西の魅力”も同時に、大阪から全国に向けアピールしたいと思います。これを機に、今年は大阪の持てる底力を存分に発揮し、この大会で活躍する若きアスリートのように、雄々しく力強く飛躍したいものです。

最後になりましたが、大阪府政の推進に、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、今年が皆様一人ひとりにとって実り多いすばらしい年となりますよう心からお祈りいたします。